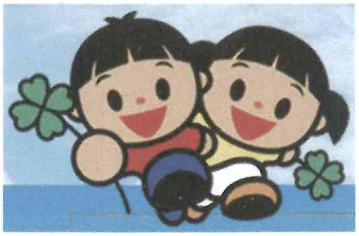
# みんなに伝える平和への想い



ペンネームまたはイニシャル

平和

昭和１６年１２月３０日　前橋市で生まれる。昭和１６年１２月８日、大東亜戦争（第二次世界大戦）勃発、私の記憶は４才の時から始まります。終戦のわずか１０日前、運命の８月５日を迎えた。この日は良く晴れた蒸し暑い日であった。陽がどっぷりとくれた午後９時、けたたましくサイレンが鳴った。９２機のＢ２９大型爆撃機による約１時間１５分におよぶ本格的な前橋への猛爆であった。この夜、市内に落とされたのは焼夷弾など、各種の爆弾の総量は７２３．８トンという膨大な量であった。死者５３５人、重軽傷者６００人、全半焼家屋１１，５１８戸、市内を一変させた。燃え上がる炎は天を焦がすような勢いで、かなり遠くの市町村からも見えた。市内は阿鼻叫喚の巷と化し闇とあいにく降り出した雨の中を人々は必死で逃げ惑った。私はこの戦火の中の生き残りの一人です。４才の時に死の恐怖に襲われたのです。「あの焼夷弾に当たると皆ここで死ぬんだよ」その言葉は今でも頭から離れない。父の弟は２２才の時に海軍で戦死、紙切れ一枚「死亡」だけ、いつか帰ってくると家族親戚は待っていました。岸壁の母です。その後、食糧難におそわれて食べるもの着るものもなく、栄養失調の状態で生きて来ました。早く大きくなってこの家をなんとかしたいと必死でした。私はこんな貧乏の家に生まれたのか？生まれてこなければよかった。心の中で叫んでいました。自分責めが始まりました。あまりの恥ずかしさと惨めさで自殺を考えました。「死にたい」は助けを求める叫び、その背景には何があったか？それは戦争があった。戦争は絶対にしてはいけない。ダメです。戦争は人間が起こすものです。だから人間が戦争をやめさせることをするのです。皆んなで力をあわせて反戦を叫びたい。全世界が平和になるように！

注 釈 ：阿鼻叫喚　地獄の苦しみを現実にしたようなむごたらしい状態